新潟米　春作業のポイント（臨時号）

平成 31 年 3 月 13 日
新潟県農林水産部

〔要約〕

平成 31 年産の作付けに向けて

◎　家庭用向けのコシヒカリ、業務用等に向くゆきん子舞やつきあかりなど、目標とする食味や品質、収量を確保するには、土づくりや、健苗育成による良質茎の早期確保、品種に適した田植え時期、栽植密度の設定が重要です。

作業のポイント

◎　気象変動に対応するため、土づくり肥料を施用し、耕深 15 ㎝を確保しましょう。
◎　浸種開始時の低水温（10℃未満）は発芽揃いが悪くなるので、10℃～15℃の水温を確保しましょう。
◎　田植え時期は、コシヒカリでは５月 10 日以降とし、早生品種では５月上旬、晩生品種では極端な遅植えを避けて５月中旬までとしましょう。
◎　早生品種のつきあかりは、初期生育が確保しにくい地域・ほ場では栽植密度を上げ、坪当たり 70 株としましょう。

ポイント１　土づくり

○　土壌診断に基づいて、土づくり肥料、堆肥、もみ殻を積極的に施用しましょう。
○　根の健全な発達を促すため、耕深 15 ㎝を目標に耕うん作業を実施しましょう。

ポイント２　健苗の育成

○　浸種開始時の低水温（10℃未満）は発芽揃いが悪くなるので、10℃～15℃の水温を確保しましょう。なお、平成 31 年は種用のコシヒカリ種子は、平年より休眠程度がやや深いと推定されるので、浸種に当たっては、水温 12℃、積算水温 120℃を目安にしましょう。
○　は種日は、育苗様式を踏まえ、老化苗とならないよう、田植予定日から遡って設定しましょう。
○　千粒重の重い品種（つきあかり、あきあかね、いただき等）は、播種粒数を確保するため、は種量を増やす必要があります。地域の技術情報を確認してください。

ポイント３　適期田植え

○　コシヒカリの田植は、高温登熟による品質低下を防ぐため、５月 10 日以降としましょう。また、極端な遅植えでは登熟気温が確保できなくなるので、地域の技術情報を確認して、移植の晩限を守りましょう。
○　早生品種は、生育期間が短いので、早めに目標茎数を確保するよう、５月上旬に田植えを行いましょう。
○　晩生品種は、出穂が遅れると登熟気温が確保できなくなるので、５月中旬までに田植えを行いましょう。
○　直は栽培は、苗立ちを確保するため、均平な代かきを心がけ、事前に直播方式に

あった種子落下量とは種深度を確認のうえ、精度の高いは種を行いましょう

ポイント４　品種特性に応じた適正な栽植密度の確保

○　品種特性に応じた適正な栽植密度を設定し、必要な穂数を確実に確保しましょう。

○　早生品種の「つきあかり」は、初期生育が確保しにくい地域・ほ場では栽植密度を上げ、坪当たり 70 株としましょう。

品種名	栽植密度（株／坪）
新潟次郎、ちほみのり、つきあかり、ゆきん子舞	60 以上
あきあかね、あきだわら	60
いただき	50～60